

事業名：母子保健相談経費

保健センター 管理係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	02 健康づくりの推進								
基本事業	03 母子保健の充実								
開始年度	平成 9年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

妊産婦・乳幼児・乳幼児をもつ保護者

手段（事務事業の内容、やり方）

1. 親子健康相談（保健師・栄養士等による個別相談）
2. 10か月健診事後相談
3. 健診事後教室（1歳6か月および3歳児健康診査後、集団による相談・指導）

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

保護者が育児をしていく上で、気軽に相談できる場をもつことにより、育児不安の軽減がはかられ、ひいては親と子が健やかで充実した生活を送ることができる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標 1	0歳から3歳の乳幼児数	人	3,034	2,962	2,990	2,990
対象指標 2						
活動指標 1	定例健康相談実施回数（親子健康相談・10か月健診事後相談・健診事後教室）	回	96	106	106	94
活動指標 2						
成果指標 1	定例健康相談参加人数（親子健康相談・10か月健診事後相談・健診事後教室）	人	1,601	1,620	1,606	—
成果指標 2						
事業費 (A)		千円	3,274	3,152	3,460	3,186
正職員人件費 (B)		千円	12,440	12,425	12,110	12,127
総事業費 (A + B)		千円	15,714	15,577	15,570	15,313

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・親子健康相談 ・10か月健診事後相談 ・1歳6か月および3歳児健診事後教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務実施非常勤職員 3,394千円 ・リーフレット等 35千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
江別市は転入者が多く、核家族化も進行している。このような環境の中、育児の孤立化が問題となっており、育児不安を抱える保護者への支援は虐待予防の観点からも重要である。インターネット・育児書など多方面から育児に関する情報を得ることはできるが、膨大な情報を自分の中で整理できず、自信を喪失したり育児不安を増大させる保護者も見受けられる。以上のことから、個々人にあった情報提供と育児相談に応じる場の確保や育児をしている保護者同士の交流を図る場の提供など、育児支援が必要である。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 母子保健法に基づき実施。第9条に基づく事業として、親子健康相談・健診事後相談・健診事後教室を実施。平成9年の法改正において実施主体が都道府県から市町村に変更された。母子保健の向上に関する措置として、市町村の役割として明示されている。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 相談事業については、年間1,500組以上の乳幼児・保護者が利用していることから、虐待予防・育児支援の場として活用されており、貢献度は高いと考えられる。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 対象とする乳幼児数の減少や、保健センター来所による随時計測が定着してきたことにより親子相談利用者数はやや減少しているが、平成25年度も年間1000人程度の来所があり、育児や発育・発達など子育てに関して幅広く相談できる場として活用されている。また、心理発達相談員の配置により、健診事後指導教室等で有効な支援を行なえるようになった。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 親子相談は相談の場として定着しているが、今後も同様に活用されるよう現状を維持することが必要。また、健診事後に支援が必要な場合にもきめ細かく支援を継続することで効果を高めることが可能である。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 相談スタッフの確保はサービスの質を維持するためには不可欠であり、これ以上人件費を削減することは難しい。また、安全な相談の場を提供するため、老朽化した備品は随時購入していくことが必要である。